

2025年11月1日

検査機器・試薬メーカー 各位
臨床検査情報システム（LIS）開発会社 各位
電子カルテベンダー 各位

一般社団法人 日本臨床検査医学会
理事長 大西宏明
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事長 横地常広
日本臨床検査医学会 チーム医療委員会
担当理事 山崎正晴
委員長 小谷和彦
アドバイザー 諏訪部章
(公印省略)

パニック値報告の視認性向上に関する要望書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より、臨床検査分野の発展と安全な医療提供体制の構築にご尽力いただき、心より御礼申し上げます。

さて、2024年12月、医療事故調査・支援センターより、臨床検査結果の中でも特に「パニック値（Critical Value）」に関する情報伝達の重要性が再確認されました（*）。その提言書のなか（28ページ）で、**パニック値の結果表示の視認性と情報伝達の確実性の向上が喫緊の課題**として示され、「5. 学会・企業等へ期待（提案）したい事項」として学会等への要望も提言されました。

本学会としても、パニック値の見落としが重篤な医療事故や訴訟に発展しかねない重要項目であると認識しており、医療者が一目で、即時に、誤解なくパニック値を把握できる表示設計の必要性を強く感じております。

つきましては、臨床現場で使用される検査機器、検査情報システム、電子カルテにおいて、以下（次ページ）に示すような視認性向上と警告機能の強化にご協力いただきたく、お願い申し上げます。

*医療事故調査・支援センター：血液検査パニック値に係る死亡事例の分析、医療事故の再発防止に向けた提言（第20号）、2024年12月
<https://www.medsafe.or.jp/uploads/uploads/files/teigen20.pdf>

【要望内容】

1. パニック値の視認性向上

- 通常の異常値や参考値とは異なる視覚的強調（例：赤枠・アイコン・点滅・太字・色変化など）を設けること。
- 数値の前後に「▲ パニック値」等の**ラベル表示**を付加すること。

2. アラート機能の付加

- パニック値が登録された場合に、自動的に**ポップアップ通知・サウンドアラート・メッセージ送信**等の即時通知が行われる設計の導入。

3. 検査情報システム(LIS)・電子カルテ(EMR/EHR)間の連携強化

- LISで設定されたパニック値情報が、**電子カルテ側でも同様の強調表示・警告表示がなされる**よう、システム間での表示仕様の統一を図ること。

4. ユーザー施設ごとの柔軟なカスタマイズ

- 医療機関の基準に応じて、**報告対象項目や閾値・表示形式を柔軟に設定できるユーザーインターフェース (UI) /ユーザーエクスペリエンス (UX)** を提供いただくこと。

5. 運用マニュアル・研修資料の整備

- 上記の機能を医療現場が有効に活用できるよう、**操作マニュアルの明確化**、および**利用者向け教育コンテンツ**の整備も併せてご検討願います。

これらの改善は、パニック値の見落としによる重大な医療事故を未然に防ぐとともに、医療従事者の迅速な意思決定を支援するための極めて重要な取り組みであり、患者安全文化の醸成にも直結するものと確信しております。

何卒、上記趣旨をご理解の上、ご検討ならびにご対応賜りますよう、お願ひ申し上げます。

敬具